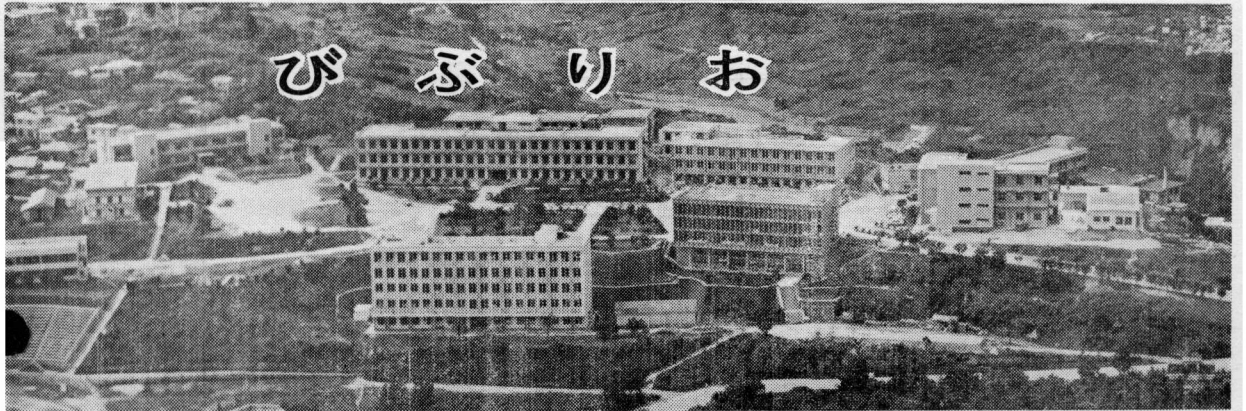


お ぶ り び



VOL. 1 NO. 1

The University of the Ryukyus Library Bulletin

1967. 5. 10

現在では書物は大方の人の生活必需品になっている。必要な書物が手近かなところにそろっていると何かと便利である。書物は必要な知識を提供してくれるほかいろいろと用途が広い。書物を部屋の装飾品として利用する人も少なくない。私の父は昼寝のときよく書物を枕にしていたものである。書物は全く重宝なものである。

日本人ほど書物の蒐集癖の強い国民もそう多くはあるまい。特に大学の先生ともなると書物に埋もれていないとどうにも恰好がつかないものと思っている風さえある。古い大学等では、教授の個室は沢山の書物で一杯になっているのが一般である。それらの中には勿論現在使用されているものも少なからずあるだろうが、またそうでないものも数多くあるに違いあるまい。以前大へん世話になった書物は現在仮令使用してなくても身近かに置いていたいと願うのが人情である。或は既に使用済みになった書物でもいつなんどき必要になるかも知れないのでなかなか手離せないのがこれまた人情である。

或る大学の附属図書館を訪れ
をしてくれた。日本文学専攻の
書をかかなりの冊数10数年も前に
貰えないそうである。ときたま
却方御願ひしても一向に効果が
ら先生の研究室へ返却方御願ひ
んど使用していないので返却し
また誰かがきくと貸出すること

公共物の有効性

宮 城 健

とき私に必要が生じて図書館へ行っても私の急場に間に合わないではないですか。そんなわけでお返しするわけにいきません。」事務長はこんな御返事をいただいてひきさがったそうである。

学問人口の増大に伴ってこのようなことはたびたびおこりそうなことである。私はうちの大学にこの大先生のような図書館道德の欠如した方がいないことを嬉しく思った。

図書館としては利用者に不便を与えないよう適当な部数の副本を備えるべきことは勿論であるが、金だけでは解決出来ない入手不可能な書物だってあり得ることである。云うまでもなく大学予算で購入された図書は共有物である。現在本土の大学で頭を痛めている問題の一つにこの共有物の私有化があるようにきている。この問題は図書館利用者全員の理解と協力なくして解決出来る問題ではなさそうである。

たとき事務長が次のような話
ある大先生は高価で貴重な図
貸出されていてまだに返却して
閲覧希望者があって先生に返
ないので、ある日事務長自か
に向いたところ、「現在殆
てもよいが、私が返却すると
は明らかでしょう。そんなと

(附属図書館長 理工学部教授)

「出版年鑑」

1950年版～(1967年版)

図書館報を発行するにあたり、この欄では研究、学習に資する基本参考図書を取りあげて解題していくことになった。紹介される資料はいつでも図書館に所蔵されるものである。

× × ×

イギリスの諺に「真の知識人とは知識の所在と検索の方法を知っている人のことである」というのがある。個人が記憶できる量にはおのずと限界があり、それも時とともに不確かなものになっていくのであるから、知識を常に再生し必要に応じて使い分けることは知識人に課された一つの課題であるといえる。

今世紀に入ってからいわゆる事典、便覧、年鑑の類が多く出版されるようになったのは、社会の拡大、複雑化、その結果として知識量が膨大なものになり、同時にこれを再整理して提供することが必要になったことにある。すなわち、事典はスタンダードな知識を包括的に、便覧は知識をハンデイーに、利用者にそれぞれ提供するのを目的とする。これにたいして年鑑は通常、年誌、年間トピックの特集、現状概観、趨勢、統計、便覧、資料、名簿などから構成されており、なかでもその特徴は豊富な統計的資料、表、図表などを用いて具体的に解説していることである。

「出版年鑑」は1950年から装いを新たに刊行されるようになったわが国の代表的な出版物に関する年鑑である。わが国の出版界の出来事を、年間史、書籍目録、雑誌目録、統計、名簿、法規の6篇から構成し、これに参考資料、索引をふしている。すでに推量されるように、これらの各篇には年間における出版傾向、出版の特徴、受賞図書、文化団体の動き、書籍の価格の変動から図書館の動態、さらには出版、著作権に関する法規など、出版に関する資料が細大もろさず収録されていて、一種の出版文化誌の観さえ呈しているのである。とはいっても、この年鑑がわれわれにもつ意義はその年間における新刊書、重版書、一般雑誌及び学術雑誌(学会、研究会、大学紀要)などを精力的に収録しているところにある。ともすればわれわれの読書や学習、ひいては研究が手近にある図書資料に限定されがちなのであるが、この出版年鑑の「書籍目録」「雑誌目録」は出版されている入手可能な書籍や雑誌の所在目録のような役割をはたしてくれる。さらに、著者、書名はもとより、出版社、定価などがふされ、雑誌の場合は売品、非売品の別、発行回数などが示されている。末尾には書名、著訳編者人名、雑誌の索引がふされており、年鑑を使い易いものになっている。読書人はいうに及ばず、最高学府に学ぶ者にとっては出版年鑑を駆使できることが望ましいといえる。知識の源泉としてのこの年鑑を利用することは知識人としての一つの条件でもあるといえよう。

■故仲原善忠氏の蔵書本館へ

「琉球の歴史」「おもろ新釈」、さらに最近の「校本おもろさうし」「おもろさうし辞典・総索引」（この二著ともに外間守善氏との共著）などの著者として、沖繩研究で著名な仲原善忠氏の蔵書が本館に収蔵されることになった。

仲原善忠氏は1890年に久米島に生まれ、沖繩師範、広島高師に学ばれ、卒業後は成城高校（成城大学の前身）、明治大学で教鞭をとられるなど、主として中央で活躍しておられた。沖繩研究は実弟仲原善秀氏と共同で1940年に刊行された「久米島史話」を契機に、専門の地理学、歴史学をバックにおもろさうしの研究を中心に沖繩研究の分野で多くの業績を発表された。とくに前記の「琉球の歴史」は近代歴史学研究の成果を土台に沖繩の歴史を発展的にとらえて画期的な時代区分を試みられ、その後の沖繩研究に方向づけを与えられた。沖繩研究の体系化に努力されるとともに、普遍性にとんだ独創的な成果を多く発表されている。

本館に収蔵された蔵書は2319点にのぼり、これには多くの貴重な資料が含まれている。仲原善忠文庫として保管されると共に、近い中に「仲原文庫目録」が刊行されることになっている。

<琉球大学継続購入和・洋雑誌目録>

学術研究に占める学術雑誌の役割はここに改めてのべるまでもないほど重要なものである。新しい研究成果の伝達と交流は学術雑誌を軸にその多くはなされているといってもよいであろう。

琉球大学図書館では学術研究に資するため、本土はもとより、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、更に遠くはスウェーデン、デンマークなどの諸外国から918種（和雑誌480種、洋雑誌438種）にのぼって購入しているが、その数量が莫大なものになったため今度これらをまとめて「継続購入和・洋雑誌目録」を編集、発行した。

雑誌はアルファベット順に和雑誌、洋雑誌を配列し、ついで各学科が購入を希望した雑誌を学科順に配列してある。世界で出版される雑誌の種数に較べれば琉球大学図書館が購入しているものは微々たるものに過ぎないが、これら雑誌がこの目録を手がかりに広く適切に利用されることがまたれている。

■新井裕丈氏 East West Centerへ

参考司書（雑誌担当）・新井裕丈氏は6ヶ月にわたって研修をうけるため、4月14日ハワイに出発した。

これはさきに来館したハワイ大学・East West Center図書館アジア資料（日本部門）主査、松井正人氏から宮城健図書館長にもたらされた計画が具体化したもので、その手はじめに新井氏が派遣されたものである。新井氏はハワイ大学の図書館学の講義を聴講しながらE-W Center図書館でIn-Service Trainingをうけることになっている。

図 書 館 事 情

<図書館の開館時間>

図書館の開、閉館時間はつぎのとおりである。

月曜日～金曜日 8：30～21：00

土曜日 8：30～16：00

ただし木曜日は都合により17：00までの場合がある。

なお法定休日は閉館、また館長の命によって臨時に休館または閉館することがあるので図書館からのお知らせに注意されたい。

図書の貸出については、学生は、参考書、雑誌、郷土資料そのほか図書館が貸出を禁じる特殊な図書資料のほかのものを、和書2冊、洋書2冊をそれぞれ10日借りることができる。なお、図書を借りる場合は学生証を提示して図書を帯出しようとする者が本人であることを証明しなければならない。指定図書は閉館1時間前から翌朝の9時まで、学生証を預けて特別に借りることができる。

<職員の移動>

整理係の金城幸秀は4月の人事移動で学生部教務課に移った。1962年に本学を卒業と同時に図書館に奉職し、そのあいだ図書の整理業務に従事していた。

同じく整理係の洋書の目録を担当していた平陽子が館内移動で運用係に移った。

整理係の友寄直子が一種非常勤職から二級一般事務職に4月1日づけで発令された。

金城照子、池原幸子は5月1日づけで二級一般事務職（司書有資格）として採用され、整理係スタッフに加わった。

<ゼーラックスー複写装置ーの設置>

稀少文献の複製と同時に図書館所蔵資料のサービスに重点をおいている本館ではさきごろゼーラックス（Xerox）一電子複写装置機一を沖繩ゼーラックス代理店から賃貸した。この複写機械は操作簡便、高性能で複写スピードも早くわずか30秒で複製することができる。まえに購入されているエレファックス、オフセット機とともに、文献の複製及びサービスに大いに役立つものと期待されている。

琉球大学附属図書館報「びぶりお」VOL.1 No.1 1967年5月10日発行

編集兼発行人 平 良 恵 仁 琉球大学附属図書館発行

沖繩那覇市当麻町3丁目1番地 電代表(2) - 3101